

羽村チャリティーコンサート

ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団

HUGO WOLF TRIO WIEN



撮影/Gyula Fodor

2008年

10月7日(火)

18:30開場 19:00開演

チェロ:ラファエル・フリーダー ピアノ:マリノ・フォルメンティ ヴァイオリン:ダニエル・ゲーデ

ドヴォルジャーク : ピアノ四重奏曲 第1番 二長調 作品23 第2楽章
ブラームス : ピアノ三重奏曲 第1番 口長調 作品8
他

演奏者の都合によりプログラムが変更されることがございます。

全席指定 2,000円

(このチケット料は青少年健全育成
のために寄贈されます)

羽村市生涯学習センター
ゆとろぎ 大ホール



客演 山寺明子

ヴィオラ Akiko Yamadera

主催/(財)青梅佐藤財団

後援/ 羽村市 青梅市 羽村市教育委員会 青梅市教育委員会 フレンドシップコンサート青梅

協力/ ゆとろぎ協働事業運営市民の会

チケット取り扱い・お問い合わせ/ ゆとろぎ市民の会

フレンドシップコンサート青梅 090-5195-3030 e-mail: kaidokei@t-net.ne.jp

ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団

HUGO WOLF TRIO WIEN

2004年にウィーン・アルカディア・ピアノ四重奏団の一員として、日本で共演する機会を持ったマリノ・フォルメンティ、ダニエル・ゲーデ及びラファエル・フリーダーの3名の音楽家は、互いの音楽に対する真摯な姿勢に強く共感し、2007年1月ピアノ三重奏団を結成した。ソリストとして欧米を中心に目覚ましい活躍を続けるピアニスト、マリノ・フォルメンティ、名ヴァイオリニストとしてわが国でも著名な前ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター、ダニエル・ゲーデ、ウィーン・フィルでチェロの貴公子と呼ばれ、その美音を誇るチェロ奏者ラファエル・フリーダーの3名が紡ぎだす名曲の数々はわが国の音楽愛好家の心を捉えてやまないであろう。

■マリノ・フォルメンティ (Marino Formenti) ピアノ

北イタリアのミラノに生まれる。ミラノ音楽院にてピアノ及び指揮法と作曲を学んだ後、ウィーンに移り、オレグ・マイセンベルクとユヴォス・ラジョビックに師事し、ピアノと指揮にさらに研鑽を重ねる。ピアニストとしてザルツブルグ音楽祭、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ウィーンコンツェルトハウス、ウィーン音楽週間、サントリーホール、チャイコフスキー音楽院、サンクトペテルズブルク管弦楽団、ロスアンジェルスLACMA等で演奏を行う。指揮者のインゴ・メツマッハー、シルヴァン・カンブリリング、ハンス・ゼンダーらと共に演奏活動を行う。またロッケンハウス音楽祭にギドン・クレメルと共にソリスト及び指揮者として出演し絶賛を博す一方、現代音楽にも精通し、G・クルターク、F・ツェーハ、H・ラッハマン、S・ブゾットらの作曲家と共に活動する。ソリストとしての活動はもとより、アンサンブル・クラングフォーラム・ウィーンのメンバーとして室内楽にも積極的に取り組んでいる。ここ数年の欧米における活躍は特筆すべきもので、今年3月にはザルツブルクのモーツァルテウム大ホールでノーノとシュベルトの作品を演奏、4月には有名なサンフランシスコ・パフォーマンスにラン・ランやスーザン・グラハムらとともに初めて招待され3回のピアノ・リサイタルを行い、5月にはウィーン音楽祭でヤナーチェクのピアノ協奏曲を演奏。6月に行われた日本各地での初リサイタルも圧倒的な成功を収めた。そして11月にルツェルン音楽祭でのソロ・デビューとめざましく活躍している。

■ダニエル・ゲーデ (Prof. Daniel Gädde) ヴァイオリン (前ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター)

1966年にドイツのハンブルクに生まれる。6歳よりヴァイオリンを始め、83年ドイツ国内コンクール1等賞及びロンドンにおけるカール・フレッシュ国際コンクール優勝。86年にはクラウディオ・アバドの主宰するEUユースオーケストラ、コンサート・マスターに就任。世界的な演奏活動を展開し92年にはカーネギーホールにデビュー、ソリストとしてロイヤル・アルバート・ホール、バービカン・ホール、ウィーン楽友協会ホールで演奏、ウィーン・フィル、フィルハーモニア管弦楽団を初めとする著名オーケストラと共演する。室内楽奏者としてはゲーデ・トリオを編成し現代音楽を含んだ多彩な演奏活動を展開し、欧米及び日本でのTVラジオ出演多数。ドイツ・グラムフォン、ラルゴ等のレーベルよりCDをリリース。1991年より94年までベルリン芸術大学で教鞭をとり2000年以降はニュルンベルク音楽大学ヴァイオリン科主任教授の職にある。1994年から2000年までウィーン・フィルハーモニー管弦楽団及びウィーン国立歌劇場管弦楽団でコンサート・マスターを務めた。わが国での演奏会出演も数多く、霧島国際音楽祭や芦ノ湖音楽祭に招かれ、コンサートの活動の傍ら積極的に後進の指導にあたっている。

■ラファエル・フリーダー (Raphael Flieder) チェロ(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団員)

1962年ウィーンに生まれる。ウィーン音楽院にてリヒャルト・マツシュカに師事の後、ジュネーブにてピエール・フルニエのもとで学ぶ。同時にベルリン・フィルハーモニー・オーケストラ・アカデミーでも研鑽を積む。1979年ジュネーブ国際音楽コンクールにて第3位入賞を果たす。1985年にはウィーンの名門オーケストラ、トンキュンストラ管弦楽団の首席チェロ奏者となる。1990年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団及びウィーン国立歌劇場管弦楽団団員となる。1991年より2001年までゲアハルト・イペラー(現ウィーン・ムジークフェライン弦楽四重奏団チェロ奏者)の後任としてウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団、2004年から2006年までウィーン・アルカディア・ピアノ四重奏団でチェロ奏者を務めた。

■山寺明子 (客演)

玉川大学芸術学部音楽専攻ヴァイオリン科卒業。卒業後ヴィオラに転じ、同校芸術専攻科を修了。大野順二、岡田伸夫、プラム・ブルース、エドワルド・クドラック、各氏に師事。現在、ヴァイオリニストの八下田一雄氏と共に、シュヴェークアンサンブルで活動する傍ら、1999年以来、ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団及び、ウィーンアルカディアピアノ四重奏団の日本各地における公演に連続して客演し、2006年にはピアニストのマリノ・フォルメンティ氏、ヴァイオリニストのエーリッヒ・シャゲレル氏と共演するなどその誠実な演奏に賛辞を寄せられている。2007年にウィーンフィルのギュンター・ザイフェルト氏の勧めでプラムス・クアルテットを結成し室内楽を中心に活躍している。

■ 共演 プラムス・クアルテット

ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団の師弟クアルテットとして、山寺明子をリーダーに結成。2007年11月7日に開催されたウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団のコンサートで初演して以来活発な演奏活動を行っている。

HUGO WOLF TRIO WIEN

ウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団

2004年にウィーン・アルカディア・ピアノ四重奏団の一員として、日本で共演する機会を持ったマリノ・フォルメンティ、ダニエル・ゲーデ及びラファエル・フリーダーの3名の音楽家は、互いの音楽に対する真摯な姿勢に強く共感し2007年1月ピアノ三重奏団を結成した。ソリストとして欧米を中心に目覚ましい活躍を続けるピアニスト、マリノ・フォルメンティ、名ヴァイオリニストとしてわが国でも著名な前ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター、ダニエル・ゲーデ、ウィーン・フィルでチェロの貴公子と呼ばれ、その美音を誇るチェロ奏者ラファエル・フリーダーの3名が紡ぎ出す名曲の数々はわが国の音楽愛好家の心を捉えてやまないであろう。

■マリノ・フォルメンティ(Marino Formenti) ピアノ

北イタリアのミラノに生まれる。ミラノ音楽院にてピアノ及び指揮法と作曲を学んだ後、ウィーンに移り、オレグ・マイセンベルクとユヴォス・ラジョビックに師事しピアノと指揮にさらに研鑽を重ねる。ピアニストとしてザルツブルグ音楽祭、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ウィーンコンツェルトハウス、ウィーン音楽週間、サントリーホール、チャイコフスキー音楽院、サンクトペテルスブルク管弦楽団、ロスアンジェルスLACMA 等で演奏を行う。指揮者のインゴ・メツマッハー、シルヴァン・カンブルリング、ハンス・ゼンダーらと共に演奏活動を行う。またロッケンハウス音楽祭にギドン・クレメルと共にソリスト及び指揮者として出演し絶賛を博す一方現代音楽にも精通し、G・クルターク、F ツェーハ、H・ラッハマン、S・ブゾツィーらの作曲家と共に活動する。ソリストとしての活動はもとよりアンサンブル・クラングフォーラム・ウィーンのメンバーとして室内楽にも積極的に取り組んでいる。ここ数年の欧米における活躍は特筆すべきもので今年3月にはザルツブルクのモーツァルテウム大ホールでノーノとシュベールの作品を演奏、4月には有名なサンフランシスコ・パフォーマンスにラン・ランやスーザン・グラハムらとともに初めて招待され3回のピアノ・リサイタルを行い、5月にはウィーン音楽祭でヤナーチェクのピアノ協奏曲を演奏。6月に行われた日本各地での初リサイタルも圧倒的な成功を収めた。そして11月にはハルツェルン音楽祭でのソロ・デビューとめざましく活躍している。

■ダニエル・ゲーデ (Prof. Daniel Gaede) ヴァイオリン(前ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター)

1966年にドイツのハンブルクに生まれる。6才よりヴァイオリンを始め83年ドイツ国内コンクール1等賞及びロンドンにおけるカール・フレッシュ国際コンクール優勝。86年にはクラウディオ・アバドの主宰するEUユースオーケストラ、コンサート・マスターに就任、世界的な演奏活動を展開し92年にはカーネギーホールにデビュー、ソリストとしてロイヤル・アルバート・ホール、バービカン・ホール、ウィーン楽友会館ホールで演奏、ウィーン・フィル、フィルハーモニア管弦楽団を初めとする著名オーケストラと共演する。室内楽奏者としてはゲーデ・トリオを編成し現代音楽を含んだ多彩な演奏活動を展開し欧米及び日本でのTVラジオ出演多数。ドイツ・グラムフォン、ラルゴ等のレーベルよりCDをリリース。1991年より94年までベルリン芸術大学で教鞭をとり2000年以降はニュルンベルク音楽大学ヴァイオリン科主任教授の職にある。1994年から2000年までウィーン・フィルハーモニー管弦楽団及びウィーン国立歌劇場管弦楽団でコンサート・マスターを務めた。わが国での演奏会出演も数多く、霧島国際音楽祭や芦ノ湖音楽祭に招かれ、コンサート活動の傍ら積極的に後進の指導にあたっている。

■ラファエル・フリーダー(Raphael Flieder) チェロ(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団員)

1962年2月13日ウィーンに生まれる。ウィーン音楽院にてリヒャルト・マツシュカに師事の後ジュネーブにてピエール・フルニエのもとで学ぶ。同時にベルリン・フィルハーモニー・オーケストラ・アカデミーでも研鑽を積む。1979年ジュネーブ国際音楽コンクールにて第3位入賞を果たす。1985年にはウィーンの名門オーケストラ、トンキュンストラ管弦楽団の首席チェロ奏者となる。1990年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団及びウィーン国立歌劇場管弦楽団団員となる。1991年より2001年までゲアハルト・イベラー(現ウィーン・ムジークフェライン弦楽四重奏団チェロ奏者)の後任としてウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団、2004年から2006年までウィーン・アルカディア・ピアノ四重奏団でチェロ奏者を務めた。

NPO フレンドシップ・コンサート